

# 令和7年度 自己点検・自己評価

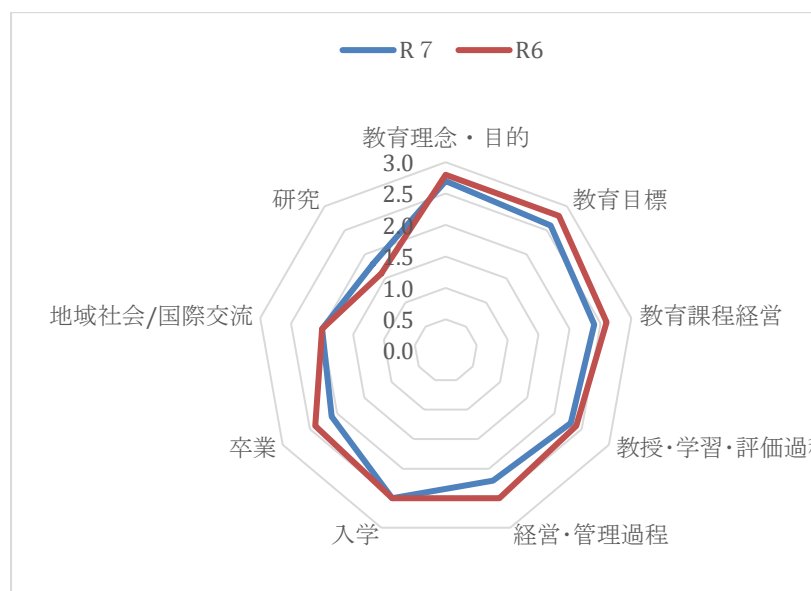
愛北看護専門学校

本校では、令和4年度のカリキュラム改正に際し、「地域の人々の暮らしを理解する」「専門職業人としての意識向上を図る」という新たな視点を加え、教育理念・目的・目標をさらに深化させました。これを受け、令和6年度よりカリキュラムマネジメントの一環として、全教職員による自己点検・自己評価を実施しております。

各教員は前年度の評価を指針とし、さらなる教育の質向上を目指して日々の教育活動に邁進してまいりました。今年度の全体平均点は前年度をわずかに下回る結果となりましたが、記述回答からは自身の課題を真摯に捉え、より高みを目指そうとする姿勢が顕著に見られました。この数値の変化は、教員個々が自己に対してより厳格な評価基準を持って臨んだ結果であると分析しております。

本評価は、9つの大項目と66の評価項目で構成され、新人からベテランまで全教員が客観的に自身の活動を振り返りました。この比較・考察結果を基に、令和8年度に向けた具体的な改善課題を抽出いたしました。次年度はこれらを柱に、さらなる教育体制の充実に努めてまいります。

| 評価項目(大項目)      | 平均値 |     |
|----------------|-----|-----|
|                | R7  | R6  |
| I 教育理念・目的      | 2.7 | 2.8 |
| II 教育目標        | 2.6 | 2.8 |
| III 教育課程経営     | 2.4 | 2.6 |
| IV 教授・学習・評価過程  | 2.3 | 2.4 |
| V 経営・管理過程      | 2.2 | 2.5 |
| VI 入学          | 2.5 | 2.5 |
| VII 卒業         | 2.1 | 2.4 |
| VIII 地域社会/国際交流 | 2.0 | 2.0 |
| IX 研究          | 1.8 | 1.6 |



## I 教育理念・教育目的

| 評価項目(質問)   | 平均値 |     |
|--|-----|-----|
|  | R7  | R6  |
| 1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性があるか                          | 2.5 | 2.9 |
| 2 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか                  | 2.5 | 2.8 |
| 3 看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっているか                 | 2.7 | 2.7 |
| 4 教育理念・教育目的は、要請する看護師等の質を保証するために、どのような人材育成（教育環境・方法）をしたいのかを明確に示している    | 2.8 | 2.9 |
| 5 卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるか | 2.9 | 2.8 |
| 6 教育理念・教育目的は、学生が卒業時点で看護師として持つべき資質を明示している                             | 2.9 | 2.9 |

## 【分析（自由記載内容と数値）】

### 低下が見られた項目

「教育上の特色と法との整合性」「学習の指針としての明示」の平均値の低下が顕著であった。これは、令和4年度のカリキュラム改正から数年が経過し、教員がより高い次元で「理念が学生の学びに即しているか」を厳格に再評価した結果と考えられる。

### 維持・向上した項目

「卒業時の資質」「看護師として持つべき資質の明示」は高水準を保っている。学生の卒業時を見据えた教育の方向性については、教員間で高い共通認識が維持されている。

## 【今後の課題】

### ①理念の「自分事化」と具体的実践の共有

「学習の指針としての具体性」を補うため、理念が各科目の授業や実習指導にどのように反映されているか、教員間で共有する場を設け理念とのつながりを明確化する。

### ②評価尺度の平準化と継続的なフィードバック

全教員（新人教員を含む）が客観的かつ一貫した基準で自己評価を行えるよう、評価項目の解釈を再確認し、次年度の教育活動における具体的な行動目標へと繋げる。

## II 教育目標

| 評価項目(質問)   | 平均値 |     |
|--|-----|-----|
|  | R7  | R6  |
| 1 教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか                                   | 2.8 | 2.9 |
| 2 教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか            | 2.8 | 2.8 |
| 3 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定しているか                | 2.5 | 2.7 |
| 4 教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示しているか | 2.5 | 2.9 |
| 5 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか    | 2.5 | 2.8 |

## 【分析（自由記載内容と数値）】

### 低下が見られた項目

「教育活動のゴールが読み取れるか」「学習者としての成長発達」の低下が目立つ。教員は「技術の習得」だけでなく、学生の「一生涯の学び」や「人間的成長」という、より高い到達点を意識し始めたことで、現状の教育活動を厳しく評価した結果といえる。

### 維持・向上した項目

「卒業時の資質」「看護師として持つべき資質の明示」は高水準。学生の卒業時を見据えた教育の方向性については、教員間で高い共通認識が維持されている。

## 【今後の課題】

### ①学生への理念浸透

シラバスや毎時間のオリエンテーションで「この学びがどのDPに繋がるか」を視覚的に明示する。

### ②自学自習の環境整備

電子書籍やICTツールをより戦略的に活用し、学生が自ら問いを解決するプロセスを支援することで、理念である「自ら学ぶ姿勢」の具現化を加速させる。

### III 教育課程経営

|    | 評価項目(質問)  | 平均値 |     |
|----|---|-----|-----|
|    |   | R7  | R6  |
| 1  | 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っているか                            | 2.3 | 2.5 |
| 2  | 教育理念-望ましい卒業生像-本会のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか                               | 2.5 | 2.8 |
| 3  | 科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしているか | 2.5 | 2.7 |
| 4  | 単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっているか  | 2.5 | 2.5 |
| 5  | 科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか  | 2.5 | 2.7 |
| 6  | 単位認定の基準(設定)および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか                                       | 2.7 | 2.8 |
| 7  | 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか  | 2.4 | 2.8 |
| 8  | 教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用における倫理的規定が明確になっているか   | 2.1 | 2.5 |
| 9  | 担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えているか                                  | 2.0 | 2.1 |
| 10 | 教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えているか  | 2.1 | 2.4 |
| 11 | 臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか   | 2.5 | 2.5 |
| 12 | 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えているか                                       | 2.4 | 2.4 |
| 13 | 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしているか  | 2.5 | 2.7 |
| 14 | 臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしているか  | 2.5 | 2.5 |

#### 【分析(自由記載内容と数値)】

##### 低下項目・低水準の項目

「教育課程の評価体系」「一貫した活動」「教育到達レベル・時間の確保」「教員の専門性・授業準備時間の確保」「相互研鑽・自己研鑽のシステム」であった。

##### 維持・向上した項目

「単位認定の基準・妥当性」「実習指導者との協調体制」であった。

強みは、ルーブリックの活用や、実習指導者への積極的な情報共有(レディネスの共有)が行われており、学生の学びを支える基盤は整っていること。また、「相互研鑽のために授業を聴講し合う」という努力の姿勢や、学会参加を教育に還元する姿勢が見られることである。

#### 【今後の課題】

##### ①実習における安全教育のリアルタイム化

インシデント報告は半期ごとの集計となっているため、実習期間中や終了直後の「鮮度の高い事例」を実習ごとに共有し、学生全体へのリスク予知指導に即座に反映させる。

##### ②業務の「重点化」と効率化による業務負担軽減

ICTのさらなる活用を進め、学生対応以外の事務的な拘束時間を削減し、本来の「教育の質向上」に充てる対策を考える。

#### IV 教授・学習・評価過程

|    | 評価項目(質問)  | 平均値 |     |
|----|---|-----|-----|
|    |   | R7  | R6  |
| 1  | 当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか             | 2.6 | 2.6 |
| 2  | 授業内容のまとまりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか                   | 2.5 | 2.7 |
| 3  | 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか                       | 2.5 | 2.5 |
| 4  | 当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか             | 2.2 | 2.3 |
| 5  | 履修形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか               | 2.5 | 2.5 |
| 6  | 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか                      | 2.5 | 2.3 |
| 7  | 当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか          | 2.1 | 2.3 |
| 8  | 学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような協力体制で行っているか                   | 1.9 | 2.3 |
| 9  | 評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか           | 2.2 | 2.2 |
| 10 | 可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか | 1.9 | 2.3 |
| 11 | 評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準等）し、公平性があるか           | 2.4 | 2.5 |

#### 【分析（自由記載内容と数値）】

##### 低下項目・課題継続の項目

「教員間の協力体制」「多面的な評価・目標達成状況」「重複・整合性・発展性」「学習を深化・発展させる方法」である

##### 維持・改善した項目

「指導技術の明示・実践」「授業内容のまとまり」である。

強みは、学生アンケートを次の授業でフィードバックしたり、学生の反応を見て授業を修正したりと、对学生への柔軟性が非常に高いこと。また、実習での気づきを授業に活かすなど、経験ベースの教育が行われていることや、他者からの助言を素直に教育活動に活かそうとする謙虚な文化（授業参観）を継続していることである。

#### 【今後の課題】

##### ①シラバス・教案の「相互クロスチェック」による発展

領域科目の担当者間で交流し、互いの演習内容を発展させられる場を設ける。

##### ②「多様な評価」のステップ導入

自由記載にある「演習での学生の反応」や「自己評価・ピア評価（学生同士）」も評価の手段として組み込むなど、評価の在り方を見直す。

## V 経営・管理過程

|    | 評価項目(質問)  | 平均値 |     |
|----|---|-----|-----|
|    |   | R7  | R6  |
| 1  | 養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか | 2.3 | 2.2 |
| 2  | 組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか     | 2.5 | 2.5 |
| 3  | 組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか                      | 2.2 | 2.5 |
| 4  | 養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか                    | 2.3 | 2.5 |
| 5  | 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか          | 2.1 | 2.3 |
| 6  | 学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもって整備しようとしているかを示し、その考え方に基いて整備計画を立案し、実施しているか                | 2.0 | 2.5 |
| 7  | 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか                    | 2.5 | 2.7 |
| 8  | 学生および教職員にとっての福利厚生施設設備は、養成所が設置されている地域環境との関連から検討し、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備しているか        | 2.3 | 2.6 |
| 9  | 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか                           | 2.4 | 2.6 |
| 10 | 教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか   | 2.2 | 2.5 |
| 11 | 広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか                         | 2.5 | 2.5 |
| 12 | 養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画・実施・評価は整合性をもってしているか                              | 2.2 | 2.5 |
| 13 | 自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか                                 | 2.1 | 2.1 |
| 14 | 養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか        | 1.8 | 2.3 |

### 【分析（自由記載内容と数値）】

#### 低下幅が大きい項目

「自己点検・評価のフィードバック」「学習・教育環境の整備計画」である。

#### 維持・向上している項目

「組織体制と意思決定システム」である。

### 【今後の課題】

#### プロジェクトチームで活動推進

授業評価プロジェクト・実習評価プロジェクトの活動を通して、自己点検の理解につなげる。

## VI 入学

|   | 評価項目(質問)   | 平均値 |     |
|---|--|-----|-----|
|   |  | R7  | R6  |
| 1 | 教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか               | 2.5 | 2.5 |
| 2 | 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか | 2.4 | 2.4 |

### 【評価】

学者選抜においては、高い評価水準を維持できている。今後は、「入学後の成長追跡」を具体化し、学生が意欲的に学び続けられる環境を作る。

## VII 卒業

| 評価項目(質問)  | 平均値 |     |
|---|-----|-----|
|   | R7  | R6  |
| 1 卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか                        | 2.4 | 2.4 |
| 2 卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか | 1.9 | 2.4 |
| 3 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか                      | 1.9 | 2.4 |
| 4 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか                                | 2.1 | 2.4 |

### 【分析(自由記載内容と数値)】

#### 低下幅が大きい項目

「卒業後の追跡調査」「卒業生と学校理念の整合性」である。

卒業生が現場でどう成長したかを追うことで、在校生への教育に活かすことができると考える。現在確認できる情報は以下となる。

| 項目     | 具体的な活動内容・実績   | *現在確認できている情報 |
|--------|---|--------------|
| 管理者輩出  | 江南厚生(12名)、安城更生(1名)、知多厚生(1名)、<br>稲沢厚生(1名)、豊田厚生(1名)、海南病院(1名)等の係長職 |              |
| 専門性の向上 | 認定看護師・特定看護師の輩出<br>8回生(1名)、9回生(2名)、10回生(1名)、13回生(1名)、19回生(1名)、   |              |

## VIII 地域社会/国際交流

| 評価項目(質問)  | 平均値 |     |
|---|-----|-----|
|   | R7  | R6  |
| 1 社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に<br>行っているか     | 2.6 | 2.5 |
| 2 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する<br>手段を持っているか | 2.5 | 2.4 |
| 3 地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れているか                   | 2.4 | 2.5 |
| 4 国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか                                    | 1.9 | 2.4 |
| 5 国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか                                 | 1.5 | 1.6 |
| 6 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制があるか                                    | 1.6 | 1.5 |
| 7 留学や海外に置いて看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制があるか                       | 1.5 | 1.3 |

### 【分析(自由記載内容と数値)】

#### 維持・向上している項目

「地域社会との連携」「災害看護」に関する項目である。

以上より、地域への強みと国際性の停滞の二極化が生じている。

### 【今後の課題】

国際性に関する実績がないため、まずは地域社会との連携と災害看護教育の維持向上を目指す。

## IX 研究

| 評 価 項 目 (質問)                             | 平均値 |     |
|--|-----|-----|
|  | R7  | R6  |
| 1 教員の研究活動は保障（時間的、財政的、環境的）されているか          | 2.1 | 1.8 |
| 2 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか               | 1.9 | 1.5 |
| 3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるかか | 1.5 | 1.5 |

### 【分析（自由記載内容と数値）】

「時間的・財政的・環境的保障」や「助言体制」の数値が明確に上昇している。  
学会参加の機会提供など、教員の研究活動への意欲・参加姿勢は、意欲の高さがうかがえる。

### 【今後の課題】

「授業においても研究の視点を取り入れる」という意見がある。日々の「授業実践の振り返り」や「教材研究」を今後も推進していく